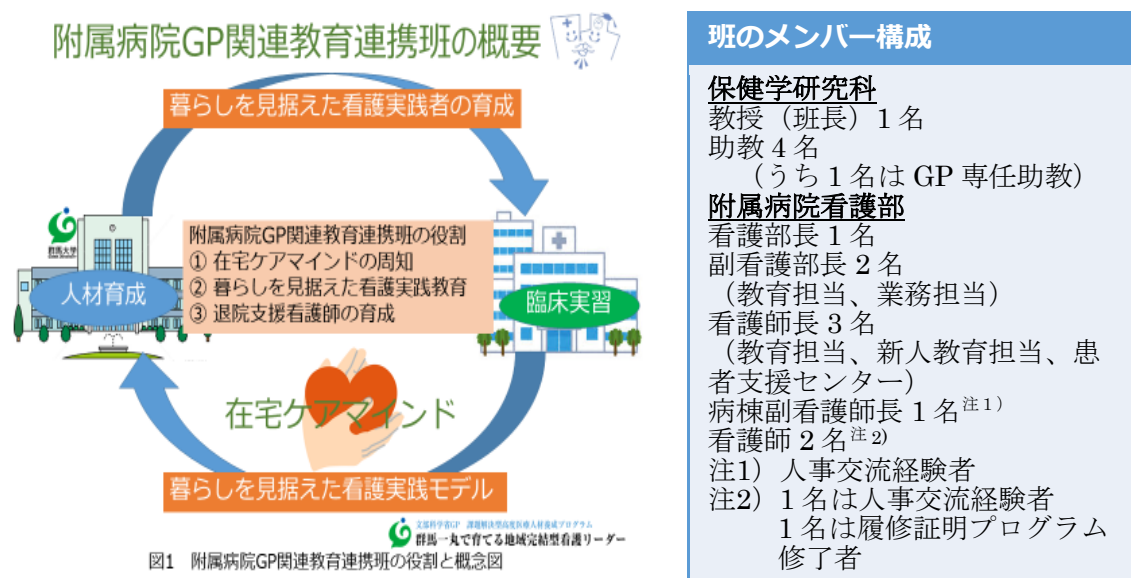


## 【附属病院 GP 関連教育連携班の概要】

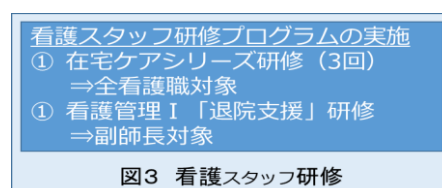
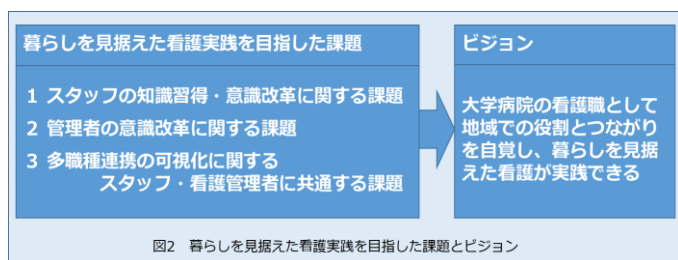
学部の臨床実習の拠点病院である群馬大学医学部附属病院（以下、附属病院）と保健学研究科の連携を強化して、地域完結型看護実践ができる

る看護職の育成プログラムの開発と実施をめざして「附属病院 GP 関連教育連携班」（以下、GP 教育連携班）が平成 28 年 4 月に発足された。附属病院 GP 関連教育連携班の役割と概念図を図 1 に示した。平成 28 年度の班会議は 15 回開催された。



## 【平成 28 年度の班活動】

1. GP 事業と在宅ケアマインドについて看護スタッフへの周知活動
  - ① 群馬一丸 GP の概要と在宅ケアマインド、履修証明プログラムと大学院コースについて記載したリーフレットを全看護職一人一人に配布した。
  - ② 看護部が企画・運営している 9 つの研修に班員が出向いて、研修参加者 428 名を対象に、在宅ケアマインドと地域完結型看護実践における課題について説明を行った。
  - ③ 在宅ケアマインドの周知状況について、全看護職員（751 名）を対象に実態調査を実施した。
2. 暮らしを見据えた看護の実践に向けた改善策の検討
  - ① 暮らしを見据えた看護実践の課題の抽出とビジョンの設定（図 2）
  - ② 退院支援フローチャートの作成（全体&部署別）
  - ③ 看護スタッフ研修プログラムの検討（図 3）



### 3. 愛媛大学医学部附属病院視察

- 1) 日時：平成 29 年 1 月 30 日～31 日
- 2) 目的：愛媛大学医学部附属病院における病棟での退院支援とその強化策の現状について知り、群馬大学医学部附属病院での暮らしを見据えた看護実践に向けた取り組みの参考にする。
- 3) 内容：以下 3 点について情報収集
  - ① 入退院支援・地域連携の体制
  - ② 退院調整看護師と退院支援コアスタッフを育成するための教育方法
  - ③ 退院調整看護師と退院支援コアスタッフの役割や実践、多職種連携の実際

### 4. 活動内容の報告・発信

- 1) 県内 4 施設合同検討会における活動報告（3 回）
  - ① 在宅を見据えた看護に関する自施設の課題（平成 28 年 7 月 21 日）
  - ② 在宅を見据えた看護に関する課題への看護の取り組み（平成 28 年 9 月 2 日）
  - ③ 在宅を見据えた看護に関する課題への取り組み状況（平成 29 年 2 月 27 日）

#### 2) 論文発表

大谷忠広、牛久保美津子、堀越政孝、金井好子、富田千恵子、杉本厚子、尾上悦子、荻原京子、佐光恵子、近藤浩子、常盤洋子、神田清子：大学病院看護職員における地域完結型看護の実践度評価, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, Vol.66 No.22, 129-137, 2016.

常盤洋子、堀越政孝、塚越聖子、高田幸子、杉本厚子、大谷忠広、富田千恵子、金井好子、深澤友子、中村美香、瀬沼麻衣子、貞形衣恵、牛久保美津子：地域完結型看護が実践できる看護職の育成—大学教員と附属病院看護部とのユニフィケーションによる取り組み—, 群馬保健学研究, 37 巻, 127-129, 2016.